

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	石田 麻子
主な担当科目	音楽とマネジメント特殊講義Ⅴ,音楽とマネジメント特殊講義Ⅵ,音楽芸術運営特別演習 ①,音楽芸術運営特別演習 ②,芸術運営演習_大研,芸術運営演習_D,芸術運営論Ⅱ,芸術文化と社会Ⅱ,卒業研究_D,文化政策研究Ⅱ,文化政策論Ⅱ
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	「芸術文化と社会Ⅱ」「芸術運営論Ⅱ」は、クラシック業界を中心とした講師陣となっていることを理解したうえで履修するように、シラバスの記載にも一層の工夫が必要となる。「文化政策論Ⅱ」は、各国の文化政策がどのように形成されているのかなど、興味をもって考えられるように、一層の工夫をしていきたい。いずれの授業においても、学生との双方向のやりとりに心がけ、対面での授業の効果が最大限にあげられるように努めていきたい。
2024年の教育に関する自己評価	「芸術文化と社会Ⅱ」「芸術運営論Ⅱ」には、日韓文化交流、映画、音楽祭運営、オーケストラ運営などの第一線で活躍されている多様な講師を招聘することができ、学生たちの卒業後の職業への興味と関心を広げることができた。「文化政策論Ⅱ」は少し感覚を空けつつ、学生同士の話し合いの場、セッションの時間を設けて、議論をして発表をさせることで、学生たちが主体的に学ぶような形式を取り入れて効果をあげることができた。
2024年のFD活動に関する自己評価	大学FD研修会、基礎ゼミFDなどに参加、FD合同研修会ではファシリテーターを務めて、教員の意見をまとめた。また、大学院のFD研修会では、ユリホールでの講座に登壇、大学院教育とはという問いかけのもと、来場した博士後期課程の在籍者たちに語り掛けながら、理解が促進するような内容とした。SD研修会(レゴのプログラム)など多様な研修の機会が提供されているため、対面参加により取り組むように努めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	大学FD研修会における学生の状況、傾向に関するデータに基づいた内容により、学生の状況把握に努めた。FDではないが、有識者会議への参加により、カリキュラム改訂のタイミングをとらえて、履修モデル作成の重要性や学生たちの履修傾向(「楽単」を好む)などの知見を得ることができた。これは直接カリキュラム改訂に役立てられ、また授業改善においても、単位取得に関するアナウンスを冒頭から明確におこなうなど、大いに参考にすることができた。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1404 教員名:石田 麻子

1)アンケート結果に対する所見

【文化政策論Ⅱ】は、「わかりやすい」という意見の他、「社会の中に音楽、芸術がどのようにあるのか、あるべきなのか、特に、海外と比較して日本の今を見る授業は他にないと思います。個人的には、半期だけなのがとてももったいないと思いますがその分、半期で濃縮された授業であったと感じています。音楽大学において、今後もぜひ続けて行すべき授業の1つだと考えています」さらに「文化政策論という講義名だけ見ると固い印象を感じますが、この大学の全ての人に受けて頂きたい素晴らしい内容でした。普段あまり関係の無い分野についての知識も深められ、多くの新たな発見がありました」との意見があり、大変励みになる感想だった。また、総合満足度も100%が「そう思う」と答えていて、うれしい結果となった。

【芸術文化と社会Ⅱ】は「そう思う」と「少し思う」で100%となった。いずれの回答項目についても平均点近くには達しているものの、出講いただく外部講師との間で内容の詰めなどに心がけていきたい。【音楽マネジメント特講Ⅵ】も総合満足度が100%「そう思う」と回答しており、外部講師の方々のご尽力もあって、充実した内容となった。いずれの授業も学生たちが真摯に受講している様子が伝わり、手ごたえを得ることができた。

2)要望への対応・改善方策

「受講年度や学次により授業の内容から感じること・考えることが異なってくると考えます。授業を受講することで、社会人になる前にこれまで目を向けてこなかった分野や社会文化、知ってはいたが今の情勢との関係性を知らなかったことについて目を向けるきっかけになる授業なのではないかと。私情ではありますが、芸術文化と社会で外部の方のお話を聞く時間よりも学生がコミュニケーションをとる環境の整っている場がより広がっていくとありがたいと思います」との意見があり、内容はもとより、授業方法をより一層工夫していく必要があるため、学生と講師、学生間のコミュニケーションの機会を設けるようにしていきたい。

3)今後の課題

学生のニーズは年々大きく変化してきている。巻き込み型の授業のほうの手ごたえがあると強く感じるようになった。そうしたことも含め、授業方法の改善に努めていきたい。

以 上